

インドネシアのハラル表示とインドのベジタリアン表示

有原 圭三*

北里大学 獣医学部

青森県十和田市東二十三番町 35-1 〒034-8628

2015年1月6日受付, 2015年1月22日受理

1. はじめに

2013年にアレルギー表示などを盛り込んだ食品表示法が公布され、2015年には施行される。また、食品の新たな機能性表示制度も、2015年から導入される。このように昨今、食品の表示に関する動きが大きく、食品の製造販売者には気になる状況が続いている。

一方、人口減などに伴う日本国内の食品市場の縮小に対応するために、国産農産物や加工食品の海外市場への展開が、農業や食品産業の発展のために求められている。海外展開に際しては、国内とは異なる制度の理解が不可欠である。もちろん、表示に関する制度についても、熟知したうえで対応する必要がある。本稿では、最近、筆者が接する機会があったインドネシアのハラル表示とインドのベジタリアン表示について紹介する。

2. インドネシアのハラル表示

近年、世界で16億人と言われるイスラム教徒が構成する市場に、熱い視線が向けられている。最もイスラム教徒の多い国であるインドネシアでは、人口2億4千万人うち約2億人がイスラム教徒である。経済的な発展が著しいこともあり、インドネシアをはじめとするイスラム圏の国々への関心が高まっている。

イスラム市場を考える際、「ハラル (Halal)」を避けて通ることはできない。ハラルは、「イスラム法で許さ

れたもの」を意味し、とくに食品の分野の話として取り上げられることが多い。イスラム教徒が豚肉を忌避することはよく知られているが、鶏肉や牛肉も、イスラム法のルール (ハラル) で扱わなければ、食する対象とはならない。家畜や家禽を扱う場合、給餌、と畜、解体、輸送、保管といった過程で、様々な取り決めが設けられている。

写真1は、インドネシアのスーパーマーケットの精肉売場で見かけたハラルの表示である。ここに並べられている鶏肉や牛肉 (加工品を含む) は、定められた方法で



写真1. インドネシアのスーパーマーケットにおけるハラル表示



写真2. ハラル認証マークのあるインドネシアのコンビーフ缶

* 連絡者：有原 圭三 (ありはら けいぞう)
(北里大学 獣医学部)
〒034-8628 青森県十和田市東二十三番町 35-1
Tel: 0176-24-9341 Fax: 0176-23-8703
E-mail: arihara@vmas.kitasato-u.ac.jp

飼育やと畜などが行われていることを意味している。加工食品の場合、パッケージにハラルの認証マークが付けられているものを、イスラム圏の国々では普通に目にする。写真2はインドネシアのコンビーフ缶だが、円形のマーク中央に、「HALAL」の文字が見える。イスラム教徒には忌避される豚肉だが、インドネシアにはキリスト教徒やヒンドゥー教徒も少なくない。豚肉を原料としている場合は、写真3の製品のように豚のマークを付けて一目で分かるようにしているものが多い。

インドネシアのスーパーマーケットでは、ハラル認証マークのある食品がたくさん見つかる。とくに海外メーカーの製品では、パッケージに認証マークが付けられているものが目立つ。写真4のパッケージは、日清の即席麺と味の素の調味料だが、いずれも認証マークがある。なお、味の素の「Masako」は、現地では非常に人気のある調味料で、インドネシア語の「Masak（料理をする）」からの造語である。コカ・コーラやポカリスエット（写真5）のような清涼飲料水の類にも、認証マークが付けられている。原料を考えると、ハラル上の問題は考えにくい製品だが、外国製品ではこのマークがないとイスラ



写真3. 豚肉原料の使用を表示しているインドネシアのソーセージ



写真4. ハラル認証マークのある日本製品
（左：即席麺、右：調味料）



写真5. ハラル認証マークのある飲料
（左：コカ・コーラ、右：ポカリスエット）

ム市場で受け入れられない。菓子類にも、認証マークが付けられたものが結構ある（写真6）。海外からイスラム圏の食品市場に進出する場合、もはやハラル対応は必須なようである。

食品以外でも、口に入れたり、皮膚に触れたりするものは、ハラル対応をする必要がある。写真7にあげたのは、歯磨きペーストとスキンケア用品である。豚皮コラーゲンを原料とした化粧品などは、もちろんハラル認証を得ることはできない。医薬品も対象となるので、動物由来の原料（臓器、血液、酵素など）を使用しているものは注意が必要である。

日本国内でも、ハラル認証を得た食品を製造するメーカーが増えつつある。現在、青森県・五戸町にある加工施設からは、青森県の地鶏「青森シャモロック」を原料としたハラル認証マークを付けた鶏肉加工品が出荷されている（写真8）。食材店やレストランでも、ハラル食材やハラルメニューを提供するところが、徐々にだが



写真6. ハラル認証マークのある菓子類
（左：スティック菓子、右：ガム）



写真7. ハラル認証マークのある歯磨きペースト（左）とスキンケア用品（右）



写真8. ハラル認証マークのある「青森シャモロック」製品
（鶏肉加工品）

増えている。イスラム圏からの留学生のために、ハラールメニューの提供をしている大学食堂（早稲田大学など）もある。

3. インドのベジタリアン表示

インドは、食肉の類を摂取しないベジタリアンが比較的多い国である。ベジタリアンと言っても、一切の動物性食品を摂取しない「ヴィーガン」から、家禽肉を許容する「ポウヨウ・ベジタリアン」まで、様々である（表1）。インドにおけるベジタリアンは、乳・乳製品を摂取する「ラクト・ベジタリアン」を指すことが多いようである。

表1. ベジタリアンが摂取できる動物性食品

| ベジタリアンの種類 | 摂取可能な動物性食品 |
|---------------|------------|
| ヴィーガン | 一切無し |
| ラクト・ベジタリアン | 乳・乳製品 |
| オボ・ベジタリアン | 卵・卵製品 |
| ラクト・オボ・ベジタリアン | 乳卵・製品 |
| ベスコ・ベジタリアン | 魚介類 |
| ポウヨウ・ベジタリアン | 家禽肉 |

インドでは、ほとんどの加工食品に写真9のマークが付けられている。このマークは、インドで約3割を占めるベジタリアンのためのものである。モノクロ写真ではわかりにくいですが、このマークには色の異なる2種類があり、緑色のマーク（写真9左）は肉も卵も含まない加工食品のパッケージにあり、茶色の方（右）は肉あるいは

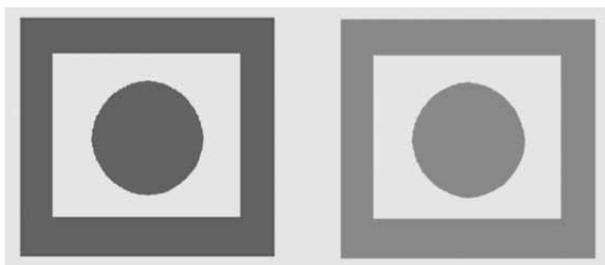


写真9. インドのベジタリアン食品マーク
（左：ベジタリアン向け、右：非ベジタリアン向け）



写真10. インドのレストランメニューの表示例

は卵を原料に含む食品に付けられている。レストランなどの飲食店でも、「ベジタリアン」と「ノンベジタリアン」のメニューが記されていることが多い（写真10）。

インドで販売されている乳製品（写真11）は、ベジタリアンが摂取可能な食品として、ほとんど緑色のマークが付けられている。写真12は、インドで販売されている日清の即席麺だが、いずれもパッケージ右上の角



写真11. インドで製造・販売されている乳製品（主に発酵乳）



写真12. ベジタリアン（左）と非ベジタリアン（右）向けマークのある即席麺



写真13. 非ベジタリアン向けマークのあるチキンソーセージ

に小さなマークがある。「スパイシーベジタブル」には緑色のマーク、「チキンラーメン」には茶色のマークが付けられている。インドの加工食品は、肉や卵を原料としたものがそれほど多くないので、緑色のマークが付いた食品が圧倒的に多い。写真13のチキンソーセージは、インドで見つけた数少ない茶色のマークが付いた食肉製品である。緑色のマークは、飲料や歯磨きペーストなど、口に入るものには付けられている。写真14に示したのはコカ・コーラだが、このあたりの事情は、前項で解説した「ハラル食品」と似ているとも言えよう。



写真14. ベジタリアン向けマークのあるコカ・コーラ

4. おわりに

世界人口の4分の1を占めるというイスラム教徒の市場は巨大である。人口減少により国内市場が縮小しつつある日本の食品産業にとって、ハラル市場は魅力的な存在である。ハラル食品を製造するためには、工場などの施設がハラル認証を得る必要がある。各国にあるイスラム教関連団体が審査・認証するが、新たな設備投資やイスラム教徒の雇用などが必要となる。本稿でも触れた青森シャモロックの加工施設では、バングラディッシュ出身のイスラム教徒を雇用している。ここ数年の間に、ハラル市場やハラル認証について解説した書籍（佐々木, 2014; 並河, 2013; 森下と武井, 2014）が出版されているので、詳しくはそれらを参照されたい。ハラル認証の状況は、国によってもだいぶ異なるようである。

ベジタリアン市場は、畜産食品と縁が薄い印象を持たれている感もあるが、乳・乳製品を受け入れるラクト・ベジタリアンや卵・卵製品まで許容するラクト・オボ・ベジタリアンが占める割合は大きい。ベジタリアンの状況など、インドの「食」に関して広範に論じられている書籍（小磯と小磯, 2006）があり、これにはインドでベジタリアンマークが導入された経緯についても、詳しい記述がある。また、健康の観点からベジタリアンの食生活を論じた入門書（蒲原, 1999; 2005）も読みやすく役立つが、肉食をやや否定的に扱っているところが少

し気になる。『ベジタリアンの世界』（鶴田, 1997）は、ベジタリアンに関するかなり本格的な書籍で、学術書とあってよいだろう。ベジタリアンの歴史的あるいは宗教的背景が詳しく論じられており、じっくりと理解を深めたいという方にはお薦めの一冊である。

イスラム圏のハラル市場やインドのベジタリアン市場は、海外で事業展開をする食品企業にとっては重要なターゲットと言えよう。イスラム圏もインドも、人口増加や経済発展が著しいので、これらの市場の成長も、当分続くであろう。本稿では触れなかったが、最近、ユダヤ教の戒律に沿った「コーシャ認証」という言葉もよく耳にするようになってきている。コーシャは、ユダヤ教の戒律に沿ったもので、豚肉を含む食品を禁止し、その他の肉類も処理方法が厳格に定められている。米国では、ユダヤ教徒以外でもコーシャ認証された食品の品質を評価する消費者が増えているそうである。日本貿易振興機構（ジェトロ）も、食品の輸出増加につながると考え、コーシャ認証に関する調査に着手している。

本稿に使用した写真（写真8以外）は、筆者がインドネシア（2014年3月）とインド（2014年9月）を訪れた際に撮ったものである。限られた期間と訪問地で目にした製品等であるので、インドネシアのハラル表示やインドのベジタリアン表示を的確に反映しているとは言えないかもしれないことをご了承願いたい。

引用文献

- 蒲原聖可. ベジタリアンの健康学. 丸善. 東京. 1999.
- 蒲原聖可. ベジタリアンの医学. 平凡社. 東京. 2005.
- 小磯千尋, 小磯学. 世界の食文化(8) インド. 農山漁村文化協会. 東京. 2006.
- 森下翠恵, 武井泉. ハラル認証取得ガイドブック. 東洋経済新報社. 東京. 2014.
- 並河良一. ハラル食品マーケットの手引き. 日本食糧新聞社. 東京. 2013.
- 佐々木良昭. ハラルマーケット最前線. 実業之日本社. 東京. 2014.
- 鶴田静. ベジタリアンの世界. 人文書院. 東京. 1997.